

## 北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの「北海道の地名」(第1回)

当社は、白老町で開設を予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第1回目は、札幌市郊外に水力発電所がある藻岩山です。

### 藻岩(モイワ)

藻岩山の山麓に当社の藻岩発電所が設置されています。

豊平川流域の発電所で一番下流にある発電所で、国道230号線からも、3条の鉄管が望めるほど、市街地の近くにある発電所ですので、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？



藻岩発電所

発電所の上流に「藻岩ダム」を設置し、そこから水路で発電所まで水を導く、「ダム水路式の発電所」であり、97.1mの落差を水が流れる勢いで水車を回して発電を行っています。その出力は12,600kWです。

この藻岩山の標高は531m。決して高くないものの北海道自然100選に選ばれた美しい山。国の天然記念物に指定されている原始林があり、四季折々の表情を見せてくれます。

それでいて札幌もいわ山ロープウェーが設置されていたり、藻岩観光自動車道も整備されているなど、札幌市民の憩いの場の一つとなっています。

この藻岩山の名前は、アイヌ語の「モイワ」(mo-iwa 小さい山)に由来するとされています。同類の「モイワ」が、北見市郊外の「藻岩山」、十勝地方豊頃町の「茂岩山」など道内各地に見られます。

ただし、札幌の藻岩山という名前は、元々は2.5km北にある「円山」がそう呼ばれていたのです。明治になって和人が間違っって今の藻岩山の呼び名にしてしまったとされています。間違われる前の藻岩山は、「インカラ・ウッ・ペ」(inkar-us-pe 眺める・いつもする・ところ)と呼ばれていました。

なるほど今も昔も山の上からの眺めは、いつも見たくなるような絶景だということなのですね。

(出典:山田秀三「北海道の地名」)